



しおかぜ通信

学校教育目標「自ら学ぶ子供」

八代市立郡築小学校
校長 村嶋 博史



R7,10,28 No,23

郡築小ホームページ

挨拶は自分から先に心を開く行為

学校教育目標「自ら学ぶ子供」に向けた土台づくりとして「やつしろスピリッツ」(あいさつ・ききかた・そろえかた)及び「自分の心に線を引く」の取組を推進しています。その中の「あいさつ」に係る本校の現状や取組などについてご紹介します。

挨拶の「挨」の訓読みは「ひらく」で、意味の一つに「近づく」があります。また、「拶」の訓読みは「せまる」で、意味の一つにこちらも「近づく」があります。つまり、挨拶とは、「自分から心を開いて、相手に迫り、お近づきになる」という行為だと考えられます。よって、「自分から先に挨拶をする」(自分から先に心を開く)ことを大切にしたいと思います。(=よりよい人間関係、幸福感)

良好な人間関係の基盤となったり、コミュニケーションを円滑にしたりする「挨拶」を、子供たちに早い段階で身に付けさせたい、そして現在及び将来に渡って幸せな生活を送ってほしいと願い、毎朝校門に立ち(交通指導も兼ねながら)子供たちと挨拶を交わしています。

最近では、自ら挨拶する子供が増えてきました。中には、こちらを見て笑顔で挨拶する子供もいて、なんとも温かい気持ちになります。

本校では、「いつでも誰にでも自分から挨拶する子供」を目指し、「職員の率先垂範」と「子供の自治的活動の支援」を基に推進しています。

「職員の率先垂範」では、職員から子供に気持ちのよい挨拶をすることで、子供たちにそのよさを味わわせ、自ら挨拶する子供を増やしたい。また、校内で数多く挨拶を交わすことで、いつでも誰にでも挨拶する子供を増やしたいと願っています。

「子供の自治的活動の支援」では、児童会の運営委員会や生活・学習委員会による「挨拶あふれる学校にしたい」という意見を重視し、職員がそれを全児童に伝える時間や場所を確保したり、内容の検討に関わったりする中で、子供たちの自治的・主体的な活動を支援し、挨拶の浸透を図っています。

PTA活動としても、長期休業期間明けに毎学期「あいさつ運動」が行われています。また、普段から地域で出会った際などは、子供たちと挨拶を交わしていることだと思います。さらに、地域の方々も子供たちの安心・安全に係る見守りと共に、普段から挨拶を交わしていただいていることと思います。

このように、地域・家庭・学校の三者が一緒になって、「いつでも誰にでも自分から挨拶」の推進に取り組んでいることは大変意義深く、子供たちの挨拶の習慣づけに好影響を及ぼしているものと思います。

本校では、(挨拶について)「学校は練習の場、本番は地域社会だよ」と話しています。ご家庭でもお子様が、地域の方々に気持ちのよい挨拶をするようにお声かけいただくとともに、そういう姿が見られた際には褒めてあげてください



挨拶の仕方をロールプレイで示す運営委員

全国学力・学習状況調査の結果分析では、「学校や地域で積極的にあいさつをする」といった生活習慣が身についている児童生徒の方が、学力調査の平均正答率が高い傾向が見られています。

これらの結果はあくまで統計的な「相関関係」を示すものであり、「あいさつをすれば必ず学力が上がる」という単純な「因果関係」を証明するものではありませんが、学力の背景には、生活習慣や学習意欲、家庭環境などの複数の要因が複雑に絡み合っていることがうかがえます。